日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
2011年9月23日 ニュースレター No.7

連絡先：大阪市生野区勝山北
4-9-12 Cafeナビ気付
Email：ianfu_ketsugi@jca.apc.org
URL：http://www.jca.apc.org/ianfu_ketsugi/
振込口座：00980―3―209232
口座名義：日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

7・31日本軍「慰安婦」被害者金学順（キム ハクスン）さん証言から20年

『20年間の水曜日』日本語版出版を記念して

今年は金学順さんが日本軍「慰安婦」被害者として、初めて証言されてから20年を迎えます。

金学順さんに続いて、韓国で、フィリピンで、中国で、アジア各地で被害者が50年に及ぶ沈黙を破り、正義を求めて立ち上がりました。しかし、金学順さんを含め、多くの被害者がこの20年の間に、解決の日を見ることなく亡くなられました。

私たちはこの20年間の運動を振り返り、被害者の死を悼み、解決のためにあらたな一歩を踏み出す契機として関西で集会を持ちました。何より若い人たちへ、この事実をどう伝えていくのかが大きな課題であり、集会実行委員会には学生たちも参加し、ともに集会を準備しました。また、私たちは昨年暮れに韓国で出版された、韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）尹美香（ユン ミ ヒャン）さんの著書『20年間の水曜日～日本軍「慰安婦」ハルモニが叫ぶゆるぎない希望』が話題になっていることを知り、この本の日本語版出版を準備、集会にあわせて韓国から尹美香さんをお招きしました。

張智恵さんの
サルプリ舞

準備の過程で、予期せぬ出来事が起こりました。私たちが予定していた７月31日、会場である大阪歴史博物館講堂の向かい側研修室を「在日特権を許さない市民の会」がとっていたことがわかりました。妨害目的は明らかであり、参加者に害が及ばないよう、最大限の努力を重ねながら当日を迎えました。幸い、当日は多くの方の支援に支えられて、隙のない警備と案内ができ、会場は人が溢れる熱気のなか、集会が始まりました。

集会の冒頭、静寂の中、亡くなられた各国被害者の方々の映像が流されました。無念の思いで亡くなられたであろう被害者に対して黙とうが行われました。さらに、実行委が編集した金学順さんの証言映像が上映されました。「悔しくて胸が張り裂けそうだ！」と泣き叫ぶ金学順さんの声が今も胸に突き刺さります。続いて、張智恵（チャン チヘ）さんによる「サルプリ舞」では、被害者の苦悩と深い苦しみが白い布を使った舞いで表現されました。

講演に立った挺対協代表の尹美香さんは「20年の歴史は希望の歴史」というメッセージを力強く発信しました。92年から始まったソウル日本大使館前水曜デモは、ハルモニたちを人権活動家、平和運動家に変え、私たちを励まし、人々の意識を変えました。もっと多くの人たちと手をつなぎたい、それがこの本が出版された所以です。12月の1000回水曜デモに向けてハルモニたちが毎週通い続けた場所に記念碑を建てる計画など、解決に向けた行動が紹介されました。

パネルディスカッションでは女性史研究者の藤目ゆきさんと、在日朝鮮人「慰安婦」被害者・宋神道（ソンシンド）さんの裁判支援を中心に活動を続けてこられた梁澄子（ヤンチンジャ）さんが発言しました。梁澄子さんからは、これまで支援者として、通訳者として被害者に寄り添う中

で感じた哀しみや痛み、変化について語られました。

「被害者の証言が食い違うことがある。それを矛盾だとして追及される。しかしそうではない。彼女らの心の傷が余りにも深く、大勢の前で自分の被害をありのままに話せなくなってしまうということがわかった。そういう心に寄り添ってきた２０年間だった。

謝罪と賠償という点では達成できていない。しかし何も残せなかったということではない。まず、「慰安婦」問題がなにであるか、事実を明らかにした。日本の運動は、被害者の話に真剣に耳を傾けてきた。彼女らにとっては、自分たちの証言が聴くに値するものだ、という確信をもっていった。それが彼女らの名誉回復につながっていった。彼女らも変わっていったが、私達自身も変わっていった、彼女らは日本の人々の意識を変えていった。彼女らは人権活動家だ。」

『20年間の水曜日』を手にする尹美香さん

証言の内容をめぐって、被害者が再び傷つけられ、心を閉ざすこともあったという話に、その理不尽さに怒りを抑えることができませんでした。痛みを理解しようとする人々の一方で、それを否定し、踏みつけようとする日本社会の持つ闇、20年間私たちが闘ってきた元凶ともいえるのではないでしょうか。

藤目さんは日本人被害者が名のり出られない日本社会のありように疑問を投げかける一方、教員として、若い世代にどれほど、歴史を学ぶことの意味を伝えられているのか、自らに問いました。

「日本人の『慰安婦』被害者が名乗りでていない。それはいなかったというのではなく、名乗り出ることを日本社会が許さないからだ。日本にはそのような公娼制度に対する許容がある。それが右翼の妄言をも助長させている。韓国は祖母の代の体験を孫にまで受け継いでいくということがあるが、日本では、天皇制のもとで、女性達がどんなに卑しい地位におとしめられ、差別されてきたのかということを伝承していくという文化が育っていない。それが大きな問題の一つだ。

今後一層事実を継承し若い世代に教えるという活動が必要となる。」

お二人の話は参加者の共感を呼び起こすと同時に、だからこそ、「慰安婦」問題を解決できないのは、私たちが生きるこの社会に問題があることを示してくれたといえます。今年の中学校教科書検定結果にみられるように、過去の歴史と向き合うことなく、戦争を賛美し、次の戦争に向けて準備するかのような教育・社会のありように、慄然とさせられます。耳に心地よい言葉ではなく、被害者の言葉を心に受けとめ、人とつながりその暖かさを感じ取れることの大切さを学ぶことが明日への力になります。20年間に学んだことをしっかり胸に刻み、ここからまた歩みはじめることを一人ひとりに感じとっていただけたのではないでしょうか。

多くの人の賛同、支持、応援に心より感謝し、繋いだこの手を離さずに、これからもともに歩んでいきたいと思います。

ありがとうございました。　　（方）

7・31集会の会計報告

7・31集会実行委員会

賛同金のご協力など、大変ありがとうございました。

会計報告を、次のようにいたします。

残金については、今後、「日本軍『慰安婦』問題・関西ネットワーク（以下、「関西ネット」）」が管理すること、「関西ネット」が承認する「慰安婦」問題解決の活動のために活用することを、確認いたしました。

〈収入〉	賛同金	414,700円
	参加費	321,500円
	合　計	736,200円
〈支出〉	ゲスト招請費	178,800円
	会場費	71,640円
	謝　礼	109,535円
	印刷代	41,902円
	雑　費	7,798円
	合　計	409,675円
〈残金〉		326,525円

被害者たちと共に「今」を生き、闘いをつなごう！

～ 韓国水曜デモに連帯！　世界同時行動inおおさか　2011・8・10 ～

今年８月は、1991年韓国で金学順（キムハクスン）さんが「慰安婦」被害者であると明らかにしてから20年目になります。そして、韓国では日本政府に対し公式の謝罪と法的賠償、そしてこのような悲劇が繰り返されないように真実を歴史にとどめることなどを求め、毎週水曜日、ソウルの日本大使館前で高齢の被害者たちがデモを行い、12月には1000回を迎えます。

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークは、この韓国水曜デモに連帯して毎月第一水曜日に大阪駅周辺で水曜集会を行っています。初めて金学順さんが被害者として名乗り出られた８月は、日本各地や世界各国の人々と連帯して、世界同時集会として行っています。

先日の８月10日水曜日は、午後６時30分から大阪中之島公園女神像前で集会を行い、その後、７時15分から西梅田公園までデモを行いました。

集会では、水曜デモの歌合唱の後、朝鮮学校授業料無償化に取り組む朝鮮総連国際・統一部長のパクさん、「子どもたちにわたすな！あぶない教科書大阪の会」の伊賀さんから連帯のあいさつをしていただきました。また、ちょうど、韓国から平和通信使として来日されていた「100年平和市民ネットワーク」の人たちや、「青い瞳」という台湾の「慰安婦」映画を撮影されている史威（ウェイシー）さんが集会に参加してくれました。全体の参加者は150人ぐらいで、他にも研修に来られている学生も参加して国際的な集会となりました。

しかしなんといってもサックス奏者のSwing MASAさんの演奏が出発集会を盛り上げてくれました。もちろん、デモの間ずっと演奏してくれて道行く人たちにもとても良いアピールができたと思います。

相変わらず大声を出す在特会の「ヤカラ」も来ていましたが、警察に押さえつけられ押し戻されていました。　７・３１の集会に参加して今回のデモのことを知り参加してくれた人もいて、この悲劇的な歴史を次世代に伝えることの大切さをあらためて感じました。

（大野）

第10回アジア連帯会議報告

「慰安婦」被害者の声を、記憶し、教育し、そして継承しよう!

第10回アジア連帯会議は、８月12日から15日まで「20年間の日本軍『慰安婦』問題解決のためのアジア連帯の評価と今後の進路――記憶、教育、そして連帯」と題して、韓国・ソウルで開かれました。東ティモール、フィリピン、タイ、台湾、韓国、日本のアジアの国々とアメリカ、カナダ、ドイツなど世界各地から150名の参加がありました。1991年から開かれてきたこの会議に、今回もまた朝鮮民主主義人民共和国は参加することができず、最近の南北関係の深刻さを実感せざるをえませんでした。

今回、20年ぶりにタイからノ・スボクさんが20年ぶりに、また日本から宋神道さんが震災後初めて故国の土を踏まれました。90歳のノ・スボクさんは、シンガポール、タイで日本軍の性奴隷として被害を受け、戦後はタイに住んでおられます。韓国語は忘れたのに「アリラン」は覚えていて、みんなの前で歌ってくださいました。また宋神道さんは東北大震災で被災され命からがら逃げられ、また帰郷することができて、その喜びもひとしおだと思います。宋さんは「他人事だと思わないでください。二度と戦争をしてはいけない」と訴えられました。

会議では、①真相究明、②立法運動、③国際連帯、④被害者支援、⑤記憶と教育などについて報告がありました。1991年、金学順さんが日本軍性奴隷被害者として名乗り出られ、その勇気に励まされた同じ被害者たちは共に立ち上がりました。孤独だった被害女性たちは共に支えあい、闘う仲間となり、彼女たちの証言を聞いた私たちの意識をゆり起こし、女性の人権について更に深め合うことができました。私たちはこの２０年間の成果を確認し、さらに問題解決のために論議し、日本政府と日本の国会に対する要求と行動計画を決めました。

会議を終え、麻浦区に建設予定の「戦争と女性の人権博物館」に行き、着工セレモニーに参加しました。住宅をリニューアルするので家庭的な親しみやすい博物館になりそうです。

最終日には、天安にある望郷の丘を訪ねました。金学順さんのお墓に参り、納骨堂に眠る被害女性たちに黙祷し、日本政府の謝罪と補償を受け取ること

タイ在住のノ・スボクさんは、韓国政府が「慰安婦」被害者に給付している給付金を使わずに貯蓄した５万バーツ（約13万円）を、今回東北大地震で被災した朝鮮学校に募金した。マイクを持つのは俳優であり韓国で朝鮮学校を支援する運動「モンダン・ヨンピル（ちびた鉛筆）」の権海孝さん。

宮城県女川で被災し、命からがら生き延びた89歳の宋神道さん。元気なお姿を見せてくれました。「残ったのは命だけ。食べたいもの食べて喋りたいこと喋って、あの世に行きたい」「戦争を起こした気持ちが憎い。殺すだけ殺して、はめたいだけはめて」「俺が生きているうちに謝罪して欲しい。これは心の問題だから！」

なく旅立たれた被害女性たちにメッセージを書いたポストイットを供えました。

この会議の論議に踏まえ、日本政府を動かすよう共に取り組みましょう。

（西）

「アジア連帯会議」に参加して

今回は貧乏旅行のためフェリー、電車、バスを乗り継いでの一人旅行であり不安もあったが、アジア連帯会議は参加して良かったと心から思える会議であった。アジア連帯会議を振り返りながら、その時々感じたこと、あとで考えたことなどを報告したい。

10日は韓国の水曜デモに参加した。道に迷いながらも大使館の前につくとすでに人がたくさん！言葉は分からなくても、みんなの熱気を肌で感じた。私もこの場にいて熱気を放つことで（平均体温高いし！）参加しているのだという気持ちになった。

さて、アジア連帯会議の初日は夜の交流会からプログラムが始まった。いい大人がみんな一生懸命に披露した出し物がすごくおかしかった。

アジア連帯会議の中身はこれまでの研究、運動の総括、刺激的な内容が盛りだくさん。少しぐったりしながらも、後から運動に参加した者にとっては、これまでの積み重ねを知るよい機会になった。

プログラムの半ばで、被害者の体験を作品にしたアニメ―ションの上映もあった。アニメーションやマンガというのは、当事者の気持ちを想像しやすいので、若い人や普段活字を読まない人に「慰安婦」問題を伝えるのにすごくいい方法だと思った。

とても有意義な会議だったからこそ、少し残念だったことが、今回は一般向けの公開部分がほとんど準備されていなかった点だ。韓国在住の友人をアジア連帯会議に誘ったのだが、彼女は韓国語でこの会議の情報を探すことができなかったという。内輪で話し合うべきこともあるが、せっかくの機会を活かしてほしかったと思う。

最も心に残ったのは、お昼の記者会見の時に金福童ハルモニが記者たちを批判した言葉だ。翻訳を通じてだったので、ニュアンスまで掴みきれていないかもしれないのだが、集まった報道陣に対して彼女はこう言った。

「あなた達はそんなに写真をとってもどうせ何も書かないでしょう？こんな時期（解放記念日の前後）にだけ来て。本当に私たちが何を言っているのか聞きたいのなら、水曜デモに来なさい。私たちはそこで語っています。」

それを聞いた時「そうだ！」と一緒に手をたたきたい気持ちになった。でも、韓国から帰り大阪に戻ってよく考えると「こんな時だけ来て」という言葉は私たちにも向けられていたかもしれないと考え始めた。私たちはしばしば「連帯」という言葉のもといろんなところへ出かけていっては集会やデモに参加するが、本当の「連帯」は自分の地に足ついた場所で社会を変えていくことだ。「アジア連帯会議に参加しました」で終わるのではなく、今後の私の行動が問われているのだろうなと思った。

今年12月に1000回目の水曜デモを迎える。こうした節目だからこそ、大きなイベント、インパクトを作り出したい。様々な角度からの取り組みが必要だと思う。特に、若い世代に伝えたいと考えるなら、学習会やデモはかなり敷居が高い。アニメーション、マンガ、映画、アート、そしてインターネットは多くの人がアクセスしやすく、歴史的なことや政治的なことを嫌う人々でもとっつきやすいと思う。

やりたいことはたくさんあっても身は一つ。やりたいこと・すべきことを全てこなすことは、なかなか難しいことも多い。しかし、疲れた時にこそ、あの日のハルモニの「こんな時にだけ来て」という言葉を思い出し、自分に喝を入れたい。これから秋から冬にかけて、また、それぞれの地域で協力してがんばっていきましょう！

（玉）

「戦争と女性の人権博物館」建設と金学順さんの墓前にて

アジア連帯会議に初めて参加しました。会議の内容はとても濃く、短い時間がもったいなく思えたくらい。そんな４日間の旅の中で最も印象に残ったのは、「戦争と女性の人権博物館」のイベントでした。「希望の扉を開く」と題されたそのイベントは、人権博物館建設がなかなか進まないことに気を揉んだ私としては、格別の喜びでした。

これまで人権博物館建設のために様々な企画を大阪でやってきましたが、資金難に加え、韓国内で光復会の反対やソウル市当局のサボタージュがあり、本来建設予定地だった西大門公園内への建設計画は遅々として進みませんでした。このままでは被害者たちが亡くなってしまう！――そう危機感をつのらせた建設委員会は方針を大転換させ、ソンミ山の麓の一軒家を買い取り、改装して博物館を実現することにしたのです。

実際にその家を前にして、被害者が、そして私たちが待ち望んでいた博物館が本当に実現するのだと実感し、本当に感動しました。中古物件なのでちょっと傷んではいますが、なかなかの豪邸です。これを若手建築士が改装を行い、数ヶ月後にはオープンとなる予定です。その日ここで祭祀が行われ、音楽にノって楽しそうに踊る宋神道さんと李容洙ハルモニの姿が、本当に嬉しそうで印象的でした。

最終日には天安にある望郷の丘に、金学順さんのお墓参りに行きました。他にもたくさんの被害者がここに眠り、宋神道さんの亡夫もここで眠っています。（『オレの心は負けてない』の埋葬シーンで泣いてしまった私としては感動もひとしおですが、宋神道さんは別行動。そりゃそうか。）

実際に金学順さんの墓前に立つと、20年前、金学順さんの証言を聴いたときの重みを思い出しました。当時20代の青年だった私は、金学順さんの顔を直視できないほどショックでした。全日空の尾翼のマークに日の丸を思いだして足がすくみ、精液を思い出すので牛乳を見ることもできないと言っていた金学順さん。墓前にいて、私は何を報告できるでしょうか?!亡くなってもなお金学順さんの存在が感じられ、重たい荷物を一つ背負ったような気持ちです。日本政府が謝罪するその日まで、やらなければならないことが沢山あります。

（右）金学順ハルモニの墓前にお花を供える李容洙ハルモニ。（中央）歌が披露されると、宋神道ハルモニと李容洙ハルモニは楽しそうに踊っていました。（左）「戦争と女性の人権博物館」の建物。これから改装され、オープンに向かいます。

とりあえず私は11月5日に、人権博物館オープンにむけたチャリティコンサートをやります。あの世から金学順さんが私たちを見ているかもしれませんが、まずは目の前の被害者が生きているうちになんとしても問題を解決させたい。そのためにもまずは多くの人に被害者の訴えを知ってもらわなくてはと思っています。

決意を新たにさせられた旅でした。

（だい）

2011年の教科書採択

東大阪市教委は育鵬社公民を採択！「慰安婦」被害者の思いを踏みにじる教科書使用を許すな

この夏、各地の教育委員会は、来年４月から中学校で使用する教科書を採択し、８月末までに文科省に通知しました。その結果を受けて「日本教育再生機構」メンバーが９月１日に記者会見を開き、発表したところによれば、彼らの執筆した育鵬社教科書の全国におけるシェアは、公私立を合わせると、歴史で、前回09年度の約６倍にあたる約3.8%、公民で約12倍の約4.2%に達する見込みとのことです。

これまで「つくる会」系教科書が採択されたことのなかった東京都大田区、神奈川県藤沢市、広島県呉市・尾道市、島根県益田市、山口県岩国市などで、今回、育鵬社が採択されました。中でも、私たちにとって衝撃的なのが、東大阪市で育鵬社公民教科書が選ばれてしまったことです。

私たち関西ネットも、関西中の教育委員会に請願書を送り、育鵬社・自由社の「つくる会」系教科書が採択されないよう、働きかけをしてきました。これらの教科書こそが、「慰安婦」記述を教科書から放逐した元凶だからです。在日韓国・朝鮮人がたくさん在住し、これまで民族教育が培われてきた歴史のある東大阪市で育鵬社公民教科書が採択されたことは本当に我慢がなりません。憤慨の極みです。

採択を決めた東大阪市教育委員会会議の議事録を見てみると、教育長が「育鵬社は、国旗・国歌について４ページにわたって記載しています。また、領土問題や拉致問題など、主権・歴史観がわかりやすく説明されており、（中略）踏み込んだ部分が特徴的でよいと思います。」と推薦の弁を述べています。この「踏み込んだ部分」というのが、要するに、国家主義への踏み込みにほかなりません。

大阪府では、６月の府議会で「君が代」斉唱時の起立を教職員に義務づける条例が成立し、さらには、この秋、義務に従わない教員はクビにできる条例の成立までが目論まれています。そんな中で、これまで在日外国人教育や国際理解教育が活発に行われてきた東大阪市で、誰も予想しなかった、育鵬社公民教科書の採択。

情報公開で取り出した資料によれば、東大阪市立の各中学校から寄せられた学校意見では、トップの日本文教出版が26校中21校の推薦を得たのに対し、育鵬社は２校と最下位でした。にもかかわらず、なぜ育鵬社が選ばれたのか？　そこに何らかの圧力が加わったとしか考えられません。

一方、育鵬社公民教科書が採択直前まで行きながら、最終局面で跳ね返された地区があります。石垣市・竹富町・与那国町の３地区からなる沖縄県八重山地区です。ここでは八重山地区採択協議会が育鵬社公民教科書を答申し、石垣市と与那国町の教育委員会は答申通り育鵬社を選んだのに対して、竹富町は答申にあえて従わず、全会一致で東京書籍の採択を決めました。八重山地区の中で異なる教科書を使用することは法律上認められないため、県教育委員会が協議を要請し、９月８日に石垣市・竹富町・与那国町の教育委員、計13人で構成する地区教育委員協会が臨時総会を開いた結果、多数決（賛成８人）で東京書籍の採択が決まりました。

何らかの圧力が加わって、学校現場から推薦されていなかった育鵬社公民教科書が選ばれたことに対して、多くの教育委員が良識に基づいた判断を下したものと思われます。そこに至るまでには、全国から竹富町教委に激励の声が寄せられ、９月２日に石垣市で開かれた採択反対の市民集会には、教員や保護者を含めて460人が集まるという経過もありました。（その後、育鵬社を無理にでも採択させようとする勢力が文科省を動かして巻き返しをはかり、９月２１日現在、情勢はなお流動的です。）

東大阪市教委に対しても、多くの市民が育鵬社公民教科書採択撤回を求めて要請行動を行っているものの、八重山の場合とは異なり、いったん決定されたものを覆すのは容易ではありません。それでも諦めることなく、様々な市民・運動団体が採択撤回に、あるいは４年後に向けて、取り組みを開始しています。私たちも東大阪市への取り組みに関わり続けるつもりです。

多くの市民の声を無視して、東大阪市で来年４月から育鵬社公民教科書が使われることになったとしても、そこであきらめる必要はありません。そもそも、学校現場の意見や、外国籍の子どもたちも多く通う東大阪市立中学校の実態を無視して選ばれた教科書が、教科書としての役割を果たせるはずがないのです。東大阪の教員たちが育鵬社公民教科書の内容を相対化し、副教材を駆使して人権教育を展開できるよう、市民として支えていく道はあります。そして、その道は、４年後の「つくる会」系教科書不採択へと繋がっていくことでしょう。

（直）

韓国水曜デモ1000回に向けて！

●これまでのとりくみ

☆「20年間の水曜日ー日本軍『慰安婦』ハルモニが叫ぶゆるぎない希望」を出版

日本軍「慰安婦」問題とは何であるのか、「私たちのような犠牲者が再び出ないように」というハルモニたちの願いをかなえることの意味などを、次の世代につなぎたいという思いで、わかりやすく書いてあります。性暴力被害について、「被害者の恥から、加害者の罪へ」とパラダイム転換を可能にした20年間の闘いは、被害者を平和人権活動家に変えました。そして、ハルモニたちは私たちの「希望」であることを、この本から実感できます。

日本図書館協会の審査で、選定図書に選ばれました！

☆DVD「終わらない戦争」を制作。貸出しをします。

4カ国5名の「慰安婦」被害者について、証言をもとに、歴史的な背景も含めて、被害体験やその後の人生を再構築しています。被害者一人ひとりにとっては、いつ“戦争“が終わったと言えるのでしょうか。観る者に問いかけます。

〈貸出し問合せ・申込み先〉「終わらない戦争」日本語版制作委員会／TEL080-6185-9995

Email ianfu_ketsugi@jca.apc.org

●これからのとりくみ

～韓国水曜デモ1000回アクション～

韓国の水曜デモが1000回を迎える12月14日に向けて、取組みます。

☆11月5日（土）13:30　李政美＋寿ジョイント～「戦争と女性の人権博物館」オープンにむけたチャリティコンサート／東成区民センター／ジョイントコンサート実行委員会主催（関西ネット参加）／3500円要予約／TEL090－8120－4798

☆11月26日（土）PM　宋神道（ソンシンド）さんを大阪にお迎えして、映画「オレの心は負けてない」を上映／福島区民センター／関西ネット・アムネスティー「慰安婦」問題チーム主催

☆12月14日（水）　1000回連帯水曜デモinおおさか

●他にも全国で様々な取り組みをします

☆1000回アクションのバナーを、あなたのブログ・ホームページや集会チラシに、自由に貼って広めよう！

☆みんなで集める、「日本の著名人宣言！」「世界の著名人1000人宣言！」

☆1000人の意見で作るキルトを、1000回水曜デモに届けよう！

☆女性への暴力撤廃週間や人権週間に合わせた映画上映を計画中

☆あなたのアイディアで創ったアクションを呼びかけてください！

世界各地で1000のアクションを起こそう！

☆次々と、取組みが決まっていきます。

どうぞ、HPをご覧ください。

http://www.jca.apc.org/ianfu_ketsugi/

活動協力金のお願い

関西ネットは、それぞれの地元で「慰安婦」問題の解決をめざして活動する市民のゆるやかなネットワークです。会員制はとらず、会費も集めていません。

そんな中、集会運営・街頭宣伝・議員や教育委員会への働きかけ・本やDVDの制作と、活動範囲が拡がっていき、財政基盤を確かにする必要に迫られています。そのため、会議の場で議論を重ね、会費を集めることも検討しました。しかしながら、メンバーには従来通りゆるやかなつながりの場であり続けたいとの思いが強く、会費ではなく活動協力金の形で、運動に取り組むための資金を集めることとしました。

皆様、「慰安婦」問題の一日も早い解決をめざし、活動協力金をお寄せくださるようお願いいたします。

※活動協力金　年間１口1,000円（２口以上歓迎）※

関西ネットメンバーに手渡していただくか、あるいは、下記宛てにご送金ください。

ゆうちょ口座：00980―3―209232
口座名義：日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
ご送金の旨、メールか電話でご連絡いただければ幸いです。
メールmt-nao@agate.plala.or.jp（関西ネット会計）
電話　080-6185-9995

ご支援を、どうかよろしくお願いいたします。